

広崎文書の内、新発見中世文書と近世文書数点を以上のよ
うに発表したのが、私自身浅学のためにかんがりの誤読が危惧さ
れる。先学諸兄のご教示を賜われれば、幸甚である。

尚これを書くにあたって、恩師中山重記先生より多大のご
教示をいただいた。

（）
宇佐市教育委員会勤務）

編集後記

秋冷の候となりましたが、会員の皆様には如何御過しでし
ようか。大分合同新聞社の「大分の歴史」も、あと一卷を残
すだけになり、県内の歴史もかなり解明され、御同慶に堪え
ません。しかし、新史料の発見をはじめ、問題点はまだまだ
多く、その解明に会員の皆様が取り組まれる必要を痛感する
次第であります。

今回は中世史を中心に編集したもので、執筆者も新進機英
の学兄にお願いしました。

若杉氏の論文は、卒論を中心にまとめたもので、大友氏の
戦国大名化を家督、家臣団、小領主、対外関係、内部対立、
領国経済、土地農民支配等のあらゆる分野から説明した意欲
的な内容で、今後の展開が期待される。広瀬氏の論説も卒論
を基盤に、田染宇佐氏の在地動向を論及したものである。田
染庄関係の史料は膨大なものであるが、本格的に取りあげた
論文は少なく、将来の展開が期待される。ただ、田染宇佐氏
の所領の変化、武士化という表面的な動きにとらわれすぎた
感があり、他氏との対比、あるいは社会的背景の分析があれ